

No. 857

企業

## zoom up

## 大和システムクリエート

強みを最大限生かしてV字回復へ

「この2年が勝負です」と語る駒木社長



(株)大和システムクリエートは、1966年(昭和41年)10月に設立。計算センターの草分け的存在として事業を行い、時代の要請に応える形でソフトウェア開発企業へと歩を進めた。現在は「社会・公共システム」「金融システム」「情報・通信システム」「物流システム」の4つの分野を柱とする独立系のソフトハウスとして事業展開している。

競争の激しいソフトウェア業界にあって、当社は高い技術力とノウハウの蓄積を背景に取引先からの信用も厚く、比較的安定した運営を続けてきたといえよう。ところが、リーマン・ショックの影響が顕在化した2010年頃から様相が一変する。受注は相応に得ていたものの、それに見合う採算を確保できず、また、中国事業投資も尖閣問題により収益の悪化に見舞われたのだ。

社長の駒木慎治氏は言う。「私が社外取締役として当社に入ったのが2014年7月。課題は明らかでした。営業への取り組みが不十分だったこと、人材育成が壁に突き当たっていたことです」。

駒木氏は、エンジニアとして大手企業で各種開発に従事し、その後は商社、ベンチャー企業のIPOや業績改善を行い複数の社長を務めてきた。企業の課題解決に精通したいわば「経営のプロ」である。その手腕を見込まれ、当社の経営を立て直すべくアドバイザーになってほしいと請われて入社した。

課題を短期間で見抜いた駒木氏。僅か半年後には社長に就任することとなる。「社長を任せられたことには驚きましたが、必ず良くなるとの確信がありました」と語る。まず着手したのは社員の意識改革だという。社長自ら社員とざっくばらんに意見交換できる場を設けて、全員とコミュニケーションをとっていった。「やる気、問題意識の持ちよう、人間関係などについて話をし、課題の輪郭をさらに明瞭にし皆の力を最大限に引き出すにはどうすればよいかを考え、あとは実践するのみでしたね」(駒木氏)。課題はわかっている、実践の段階で空回りして中途半端に終わるケースが多

いなか、社長自ら先頭に立って旗をふり、徹底的に実践する意思を体で示した。駒木氏は「ついて来られない人は辞めて結構、と言っていました。が全社員が私の気持ちに応じてくれた」と笑みを浮かべる。当社は新卒採用のみで中途採用を一切しない点も特徴の一つ。「ロイヤルティーの高さと素直な社員が多いことも改革がスムーズに進んだ要因でしょう」と分析する。

営業本部も立ち上げ、新規開拓にも本腰を入れた。社内は次第に活気を取り戻し、案件数は以前の10倍にまで増えていったという。この間、収益性は大幅に改善、V字回復を果たした。海外においても中国のほかベトナム、インドに開発拠点を設けていく準備を進める。このほか、「日本ITチャリティ駅伝」への参加など社会貢献にも積極的に取り組んでいる。

現在、140名もの社員を抱える当社だが、「企業の活性化は“人”に尽きる。足固めをしつつ、これからは事業承継問題を抱える同業他社との協業も視野に入れていく」と力を込める駒木氏。同氏の風貌は時代劇の主演を彷彿とさせる。改革へと切り込んだ太刀捌きは剣豪の冴えをみせた。今後、さらなる課題へと勝負を挑んでいく。

(取材・文/東京支社情報部 安倍 史朗)

## 会社概要

(株)大和システムクリエート  
 TDB企業コード：982108778  
 東京都中央区日本橋3-14-1 新々会館 8階  
 電話03-3275-2521  
 代表 駒木 慎治氏  
 設立：1966年10月  
 資本金：5000万円  
 事業内容：ソフトウェアの受託開発および保守・運用  
 年収入高：約14億円(2017年4月期)  
<http://www.daiwa-sc.co.jp>